

クウェート留学体験記

クウェートに語学留学に来て8カ月が過ぎた。5月に入った頃から急激に暑くなり、毎日40度を優に超す日が続く。この暑さは覚悟の上で来たが、11月頃から2月頃までは10度以下になり、とても寒かった。体験記を書くにあたって、この留学を振り返ってみると、寒かった頃は簡単に外を歩く事ができたのだ、とそれだけで恋しく思う。この留学ではランゲージセンターでアラビア語を学ぶだけでなく、クウェート人や世界各国の留学生と生活を共にする事で、日本では学ぶ事のできない貴重な体験をしていると思う。私は学校外での日常の体験を書きたいと思う。

男子留学生が住む寮は、クウェート大学のキャンパス内にあり、アラビア湾を望む11階建ての建物4棟である。オーシャンビューの景色といえども、豪華なクウェート人の住居とは違い男子寮は古く、停電、断水、水道管破裂、乾燥機からの出火、大量の小型ゴミブリ、窓から入る砂埃など問題が多く、悩ましい建物である。クウェートは大きな話が進むのがとても遅い国だが、寮を建て替えるという話も例外ではなく、聞いてから半年近く一向に進む気配はない。ただ、この環境に耐える事も日本ではできない貴重な体験だと思う...寮では、アラビア半島、北アフリカまたは南アジアから来たムスリムを中心に、世界中から来た留学生と生活している。寮の前にはサッカー、バレー、バスケットコートがあり、夜になると留学生が集まりスポーツを楽しむ。私はスポーツを通してランゲージセンター



以外の生徒とも仲良くなり、普段から話をする機会が増えた。1学期が終わった後の休み期間は毎日、彼らと夜通し話しをしながら、ムスリムの生活や習慣について学んだ。宗教について馴染みの薄い日本人がと不思議でおかしく見えるのか、色々な質問をしていると、通りかかった学生が皆、話の輪に加わり、自分たちの宗教について丁寧に話してくれた。

寮の外では、クウェート人と出かける事が多い。同世代のクウェート人にとっての娯楽はモールで買い物、映画鑑賞、サッカー、そしてディワニヤと呼ばれる各家庭の入り口にある部屋で座談することだ。その部屋では、友人だけでなく家族や、親戚も入り、お茶や



ディワニヤにて :クウェートのご馳走“マチブス” 手で食べるのが一番おいしい

コーヒーを飲みながら、週末には朝になるまで様々な事柄について話をする。この部屋で夕食と摂る事も多いため、クウェートのレストランの多くはその需要に合わせてデリバリーサービスを行っている。クウェートではサッカーやディワニヤを通してたくさんの友人ができたが、初めの友人はいつも日本が大好きなクウェート人だった。幼少のころからアニメやゲームがきっかけで日本に親しみを持っている同世代のクウェート人が本当に多くい

る事に驚いた。彼らには食事や遊びによく連れて行ってもらうが、日本語を教え、代わりにアラビア語を教わったり、語学の面でもよく助けてもらったりしている。

クウェート人は今ある時間を、趣味や、家族や親戚、友人たちと過ごす事で、最大限に楽しんでいるように思う。お金に余裕があるのも理由だが、それはイラクに侵攻されて以来、特に意識していると聞いた。



ゲームイベントの際にはクウェートのゲームファンが集結した。



銃弾が何百発も撃ち込まれた建物 :クウェートシティから船で1時間半の所にあるファイラカ島にはイラク侵攻の傷跡が今でもそのまま残されている。

また、クウェートに住む日本人の方々にも、大変お世話になっている。大使館や、企業の駐在の方々から様々な話を聞き、多くの事を学ぶ事ができた。寮でのトラブルや理不尽な出来事の後、辛くて帰りたくなった時でも、日本人の方々に会う事で、いつまでもクウェートにいたいと思うようになる。そんな温かいコミュニティーに出会えた事もこのクウェート留学での大きな財産となった。また、以前の留学生の方々がよくされていたおかげで、来て間もないころから、クウェートの日本ファンの人たちに色々と助けてもらう事が多かった。他の国の留学生と比べると、日本人留学生はかなり恵まれているとつくづく感じる。留学生活も残り1ヶ月余りとなったが、次の留学生につなぐ為にも、日本のよさを広めていきたい。また、お世話になった日本人の方々に恩返しする為にも、多くの事を学んで帰り、同じような事ができる社会人になりたいと思う。